

## 政務活動費活動報告（視察）

### (1) 出席者（会派名・個人名）

公政会（野村 博雄・和田 一繁・森野 克彦・林 利幸・谷口 典隆・伊藤 容子  
・馬場 和子・黒澤 茂樹・安澤 勝）

### (2) 実施日：令和4年9月30日（金）～10月2日（日）

## 【1. 調査の目的】

### (1) 本市における現状

2025年に滋賀県で開催される国スポ・障スポの主会場となる陸上競技場が所在する本市では、陸上の他に、なぎなた、ハンドボール、弓道の各競技会場の設営および運営を担う予定である。

### (2) 本市における課題

主会場となる県営の陸上競技場で行われる開閉会式への本市の関わり度合いや陸上、なぎなた、ハンドボール、弓道の各競技会場の設営および運営について、前回の国体開催からすでに40数年が経過していることから、知見やノウハウを有する職員がいないことや、また新型コロナウイルス感染症の感染防止対策も視野に入れた各競技会場の運営が求められるなど、現下の社会情勢を鑑みた国スポ・障スポのあり方を研究する必要があると考える。また現在まで、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ彦根市実行委員会で、年度ごとの計画を立て取り組まれているが、具体的に目に見える形とは言えない状況である。そのため、令和4年10月1日に開催される第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）総合開会式の状況を視察し、今後の本市での参考とするものである。

## 【2. 調査地選定理由】

### (1) 調査項目

- ・いちご一会とちぎ国体の開会式の運営およびスケジュール、ゾーニングについて
- ・県と市町の財政的な負担割合について
- ・なぎなた、ハンドボール競技の会場運営について
- ・各競技運営にかかる輸送計画について

### (2) 選定地：①9月30日＝TSP 太陽株式会社（東京都目黒区）14:00～15:25

②10月1日＝カンセキスタジアムとちぎ（栃木県宇都宮市）12:45～16:35

③10月2日＝マルワ・アリーナ とちぎ（栃木県栃木市）10:00～11:45

## 【3. 調査結果】

### (1) 内 容

- ① 9月30日には、多くの自治体で国体の開閉会式や各競技の運営を担っているTSP太陽株式会社様を訪問し、会場設営から具体的な運営、輸送計画に至るまで、過去の事例とともに、10月1日に開会するいちご一会とちぎ国体の競技会場の取組

もあわせてご説明をいただいた。いちご一会とちぎ国体の開会式には天皇皇后両陛下をお迎えすることや、約9千人の参加者を迎えることなどから、周辺道路の交通規制や警備体制の強化などが図られているという。本年の国体で同社は、各競技会場の警備・企画・交通輸送計画・設計・施工を、競技を行う自治体から入札により業務を請け負っておられ、実務面における苦労やノウハウなどを窺い知ることができた。

2018年の福井国体でも各競技会場の運営などを手掛けた同社から、会場計画と輸送計画を合わせたプロポーザルが有効であり、各競技を担う自治体にとってもメリットがあるのではないかと助言を受けた。また競技会場では、試合を行う本会場以外にも選手のアップのスペースや控え所などが必要とのことで、こうした施設は自治体の計画では見落とされがちな施設との指摘もあった。例えば、福井国体におけるなぎなた競技の会場では、控え所として15m×35mの仮設の大型テントを設置したことや、今年のとちぎ国体のハンドボール競技では、同競技が松ヤニを使用する関係で会場内の動線だけでなくトイレについても選手と観覧者を分ける必要があることなど、一般観覧者席を設ける競技の場合、観覧者の交通手段の確保と選手や競技役員の輸送計画策定に加え、選手のアップ場や控え所の設営と動線、会場内での選手と観覧者の動線の確保を同時進行で計画しながらスムーズな運営に努めることが求められるとの経験則に基づいた説明に、改めて仔細にわたる綿密な計画を早くから組み立てることの必要性を強く感じた。

本市が担う各競技のうち、弓道競技については、プロシードアリーナ HIKONEでのシミュレーション図案をご提示いただいた上で、メインアリーナやサブアリーナを活用しながら選手控え所や巻藁練習場の設置のアドバイスを受けた。またハンドボール競技については、先述した通り松ヤニを使用する関係で会場内通路やトイレの動線を選手と一般観覧者とを分ける必要があることと、防球ネットの設置やゴール留め用のアングルが必須であることから、今後の備品対応などについての助言を受けた。

- ② 10月1日には、いちご一会とちぎ国体の開会式が行われたカンセキスタジアムとちぎ（栃木県総合運動公園）において、開会式の運営と主会場周辺の設営ならびに交通対策などを現地視察した。

当日は開会式に参加する選手や競技役員、来賓、一般観覧者に加え、開会式にあわせて飛行が行われるブルーインパルスを間近で見ようとする市民らで大変賑わった雰囲気であった。しかし総合運動公園の駐車場の利用ができない上、周辺道路の交通も規制したため、会場に通じる道路の交通量は非常に多く、開会式会場への入場が締め切られる時刻の1時間前の段階で、周辺の主要な道路は約1kmの渋滞が発生していた。渋滞の列の中には、駅やパークアンドバスライド駐車場からのシャトルバスも見受けられた。

TSP 太陽様の担当者によると、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、選手や競技役員には事前のPCR検査と当日の抗原検査を義務付けていたといい、

スタッフや一般参加者には専用アプリ「GLOBAL SAFETY」の事前登録か体調管理チェックシートを持参しての健康状態の管理を促し、開会式の受付ポイントでは同アプリか同シートの提示を求めていた。また警備強化の一環では、金属類を入れる袋を入場者一人ひとりに渡し、スムーズな手荷物検査への協力を呼びかけていたが、入場者が多い時間帯では長蛇の列が見られた。

開会式の会場内では、30度を超える気温の中、ペットボトル類の水分持ち込みが禁止されていたが、式典会場内で販売されていたドリンクが早々に売り切れとなり、会場内の観覧者の熱中症が心配され、関係スタッフが対応に追われる姿もあった。

会場のカンセキスタジアムとちぎの収容人員は約25,000人である。今回の総合開会式観覧者は全席指定となっており、新型コロナウイルス感染症の影響もあり客席も一人分の間隔をとられ、約7,300人が観覧した。また、選手団は全体で約1,650人、大会関係者は約8,900という結果であった。

会場は入場閉切（13時25分）からエンディングプログラム終了（16時34分頃）まで、原則として退場が出来ない仕組みとなっており、また離席も、天皇皇后両陛下のご着席からご退席までの間は原則として離席できないこととなっていた。（実際には余りの暑さにより直射日光が当たる場所の観覧者は多くが日陰に入っていた。）

特に今後忘れてはならないと感じたことは、運営主体はあくまで県であるが、大会関係者の多いこと、その中でも、開式前のオープニングプログラムや閉式後に実施される式典演技であった。オープニングプログラムでは県内各地から各種団体が出演し、踊りや民謡、太鼓などを披露した。また、式典演技は、栃木の魅力を未来へつなげる物語として、小中高生約1,400人で競技場のトラックフィールド全体を利用し、趣向を凝らした演技が実施され見る者の感動を引き起こした。このような県民が出演するに場面では、特に、小中高生が出演する場合（今回の視察では式典演技）、主会場の立地する市内の小中高生が多いと想定されることである。

会場周辺の外周では、関連イベントが行われるステージや、おもてなしブースが設けられ華やいだ演出が施されていた。おもてなしブースでは選手や競技役員が入れるスペースと、一般観覧者が立ち入れるスペースを明確にゾーニングしており、こうした点においても感染症対策がとられていることを印象付けた。

開会式周辺会場におけるおもてなしブースの運営は栃木県の責任において実施しており、県の関係団体や県内の事業所、スポーツメーカーが多く、飲食を提供するブースは限られていた。

- ③ 10月2日には、6日から競技が始まるハンドボール競技会場のひとつであるマルワ・アリーナとちぎ（栃木市総合運動公園総合体育館）において、準備状況の現地視察を実施した。

すでに公式練習が始まっている競技会場内は、松ヤニ対策や動線の確保対応など

も含め、いつでも試合が実施できる準備が整えられていた。一方で、輸送交通本部、環境美化本部、おもてなしブース、売店など本番の前日までにさえ設置すればよい機能は、テントのみが置かれた状態であった。同会場には防球ネットが備品としてないため、練習・試合を通じて大型のマットを代替品としてゴール背面の壁に設置し対応されていた。

選手輸送はバスが主たるもので、一部の個人競技ではタクシーを利用することもあるとのことだったが、同会場が所在する栃木市総合運動公園は敷地面積が広く、輸送交通本部のブースが設置されており、観覧者対応と選手および競技役員の輸送の重要性を印象付けた。

おもてなしブースは開会式の周辺会場だけでなく、すべての競技会場に設置することとなっており、設置費用は開催自治体が担うこととされているという。原則として競技にかかる財政負担については県が、それ以外の負担は開催市町が負うことになっているとされており、おもてなしブースもその負担割合に倣っているとのこと。また、各競技開催市町が各々の特色を出せるのは、競技会場外のおもてなしブースなどであることから、同会場の外回り部分の電源は、発電機ではなく EV 車を配備し、環境負荷を減らす取組をアピールしているとのこと。各市町によって、このように施策に関連づけた PR はいずれの国体の競技会場でも見受けられるという。加えて栃木市では栃木駅（JR・東武鉄道）前に競技会場を案内するブースを設け、シャトルバスの発着時刻や乗り場を案内するスタッフの姿が見られ、来場者に対する競技会場外でのおもてなしが随所に見受けられた。

## (2) 考 察

いちご一会とちぎ国体では、「安全な実施」を何よりも優先させる方針で運営されているという。こうした方針は、設営や運営、オペレーションなどの随所で行き届いていることを感じる事ができた。

TSP 太陽様の説明によれば、まず県の方針があり、その上で各市町の指針が決まるとのことであったが、本市が運営を担う各競技にかかる施設の実施設計を来年度に控え、2024年度にリハーサル大会を迎えることとなる。安全で安心できる運営をベースに、時の社会情勢などを踏まえた工夫や取組を求められることになるかと考えるが、事前の綿密な計画策定に加え、会場設営・運営の計画と輸送計画を合わせた総合的なオペレーションをどのようにして担って行くのかについては、早急にその方針を決定することの必要性を、今回の視察を通じて感じた。また、各競技会場の設営や財政負担、人員確保は想定以上に多岐にわたり、県との詰めの協議や予算の確保、市職員の動員や配置計画、請負業者にアウトソーシングする場合の入札方針など、事前に決定すること多角的に検討することは、本市行政としてだけでなく、宿泊者を含む地域経済や民間事業者のプロモーション戦略にも関わることでありと捉えることができ、一早い取組を求めていきたいと考える。

総合開会式では、特に式典演技において、相当以前から十分な情報収集を行い、計画を立てその計画に沿った取組や練習がされていたように感じた。彦根市の令和4年度事業計画「開催準備業務の推進」には(1)開催準備総合計画の進行管理、(2)式典基本計画、医

事・衛生基本計画、市民運動アクションプログラムの策定、云々とあるが、この程度で十分であるのかどうか不安を感じずにはいられない。3年後を見据え今から市内各小中学校や高等学校において何らかの取組に着手することが必要ではないかと感じた。

また今回は例年にない暑さで、スタンドに屋根はあるが、その陰にならない直射日光が当たる場所で観覧された方やスタッフに熱中症の症状が出た方が少なからずあったようである。天皇陛下のおことばの際にも救急車のサイレンが鳴っていた状況であった。会場には水筒の持ち込みは可能であるが、ペットボトルの持ち込みが出来ず、大会本部から配布される紙コップに移しての持ち込みであった。本市もこのようなことを十分に想定し、医事・衛生基本計画を立てる必要がある。

国民体育大会の総合開会式の観覧は初めてであったが、天皇皇后両陛下もご臨席いただくことであり、綿密な準備と計画、県と市町の十分な連携、多くのボランティアスタッフの協力、また、この大会を盛り上げ成功させようとする小中高生の皆さんをはじめとする多くの出演者の力が非常に大切であると感じた次第である。